

実践報告資料

研究テーマ『人とのかかわりを大切にしながら、人権感覚を高め、未来を切り拓く子の育成』

研究内容【(1)、(2)、(3)、**(4)**】

学校名 (たつの市立小宅小学校)

- ア 人権教育としてのねらい**
- 学ぶ意欲や活用力を育て、自己についての肯定的な認識を形成するように支援する。
 - 人権問題を正しく認識し、認め合い、支え合い、高め合う集団作りを通して積極的に解決しようとする意欲を高める。
 - 児童虐待やスマホのメールにおけるトラブル等、児童にかかわる課題解決に向けて、関係機関との連携を図り、取組を推進する。
 - 人とのかかわりを大切にしながら、自立向上の精神と思いやりの心を育てる。
 - 家庭・地域社会との連携を深め、課題を明らかにし、一人一人を大切にされた教育指導を進める。

- イ 研究の概要**
- 人権感覚を磨き、課題解決への実践化につながる授業の創造
 - 個別の支援が必要な児童についての共通理解と手立ての工夫
 - 豊かな人間関係を構築するための特別活動の充実
 - 対人関係スキルを高める教育活動の充実
 - 児童虐待を受けた児童や問題行動を起こす児童等への支援や心のケア
 - インターネット上のトラブルに対する指導と未然防止のための方策

領域	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	2年生担任	5年生担任	3年生担任	4年生担任 社会福祉協議会 他
実施日	10月23日	11/8～12/7	12/3～12/13	9月27日
取組名	赤ちゃん先生プロジェクト「いのち」ってすばらしい	ハンセン病に対する偏見の誤りに気づき、誰もが安心してくらす社会をめざそう	安全なネットの使い方	福祉体験
目標	自分のいのちは家族や周りの人々の世話や愛情によって大切に育てられてきたことに気づき、自他のいのちを大切にしようとする意欲を高める。	元ハンセン病患者の人々の思いや願いを知り、偏見の目で接することの誤りに気づき、すべての人々が住みやすい社会にしようとする意欲をもつ。	インターネットは、大人と一緒に利用することが安全につながることや、約束を守ることの大切さに気付く。	誰もが楽しく幸せに暮らせる町を創るために、体験活動を通し介助する側・される側の立場に立って、それぞれの思いを共感的にとらえる。
資料名		「真実を知る大切さ」(自作)	「やくそくをまもっていれば…」	
指導内容や指導方法の工夫等	赤ちゃんとおふれ合い、手足の大きさを比べたり、生まれた時のことを聞いたりする。ママ講師から、命が誕生したという奇跡やどういう思いで育てられているかを聞き、自分たちの成長と照らし合わせて、自己肯定感を高める。	ハンセン病の症状や当時の世間の見方、家族のあり方などの時代背景をおさえる。人間回復の橋が架けられたことや、らい予防法が廃止されたこと、廃止されても差別事象が無くならなかったことなどから元患者やその家族の思いに迫らせる。さらに、正しい知識をもち、正しく判断できる人も増えてきていることにも気づかせ、偏見の誤りや正しい知識をもつことの大切さをおさえる。	事前にインターネットの利用状況についてアンケートを実施し児童の実態を把握した。(69%→74%)さらに家庭学習でインターネットの利便性や危険性について保護者に聞いたことをまとめさせた。授業では、映像資料を用い、視覚的にとらえやすくさせる。さらに家庭学習で調べたことを発表し、交流させる。	6講座を開設し、その中から2講座を選択し体験する。「親子ふれあい」の行事と兼ねることにより、保護者が子どもと一緒に福祉体験を行うことで、家庭でも福祉のことを話すきっかけ作りとなるとよいと考えている。体験後には感想や今後に生かしたいことを書き、発表させる。

ア 人権教育としてのねらい

- 学ぶ意欲や活用力を育て、自己についての肯定的な認識を形成するように支援する。
- 人権問題を正しく認識し、認め合い、支え合い、高め合う集団作りを通して積極的に解決しようとする意欲を高める。
- 児童虐待やスマホのメールにおけるトラブル等、児童にかかわる課題解決に向けて、関係機関との連携を図り、取組を推進する。
- 人とのかかわりを大切にしながら、自立向上の精神と思いやりの心を育てる。
- 家庭・地域社会との連携を深め、課題を明らかにし、一人一人を大切に教育指導を進める。

イ 研究の概要

- 人権感覚を磨き、課題解決への実践化につながる授業の創造
- 個別の支援が必要な児童についての共通理解と手立ての工夫
- 豊かな人間関係を構築するための特別活動の充実
- 対人関係スキルを高める教育活動の充実
- 児童虐待を受けた児童や問題行動を起こす児童等への支援や心のケア
- インターネット上のトラブルに対する指導と未然防止のための方策

領域	特別活動	特別活動	道徳	
指導者	KDDI 認定講師	6年生担任 推進教員	5年生担任	
実施日	7月10日	12月17, 18, 19日	2月6, 7, 8日	
取組名	スマホ・ケータイ 人権教室	写真の投稿	食肉センターで働く 方の思いや願いから学ぶ	
目標	スマホ等にかかわるトラブルや事件の事例を知り人権意識を高めるとともに自らの判断でリスクを回避する能力を身につけさせる。	スマホで撮った写真には個人情報に結びつく情報がたくさん含まれており、ネットに写真を投稿する時には、内容をよく考えて投稿する必要があることを理解する。	食肉センターで働く方の思いや願いを知り、食肉に関わる仕事が命をつなぐ大切な仕事であることに気づかせるとともに、食肉産業の正しい理解を図る。	
資料名		「私の写真、誰が見ているの」(事例で学ぶNetモラル)	「いのちをいただくみいちゃんがお肉になる日」	
指導内容や指導方法の工夫等	5・6年生、283人を対象に行った。小・中学生に起こりやすいトラブル事例を、児童が実感できるように動画や実際の「LINE」の画面を使って紹介する。 視聴後、問題について児童同士が話し合う時間をとり、自分事として捉えられるようにする。 スマホ等の管理や相手の人権を意識した正しい使い方、トラブルに巻き込まれないための方策について、具体的な説明をする。	SNS について知っていることなどを確認してから映像資料を視聴する。 視聴後、安易な気持ちでアップロードしたことでも起こりうる危険性について話し合う。 そこからどのような事柄に気をつけなければいけないかについて考えさせる。 さらに、安易な気持ちで SNS をアップした実際の事例から一時の行為が自分の将来まで左右する事もあることをおさえる。	前時に食肉センターの方に来て頂き、お仕事について教えてもらった。 本時では、絵本『いのちをいただく』を使って授業を行った。主人公の仕事に対する姿勢や、牛の命を解くことへの想いにせまらせる。食肉に関わる方々の仕事への責任感や使命感と命の尊さを認識させることで、食肉産業への正しい理解を図り、将来に向けて偏見や差別をはねのける判断力と実践力の素地を養わせる。	